

ひよし



新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、コロナに始まり、コロナに終わった感があります。先行き不透明な閉塞感に陥りながらも、耐え忍び、苦難を乗り越えようと、共に手を携え合い、支え合った一年だったように思います。

そのようなコロナ禍の状況の中、武左衛門ふる里まつり、日吉大運動会の分館対抗種目、芸能発表会を始め、様々な行事が中止となりました。さらには、いきいき講座やわんぱくスクール等は、回数や規模を縮小しての開催となりました。この点に関しましてご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

各分館でも同様に、行事や会合、懇親会等が中止となったと聞いています。まさにそれらに携われた方々には、中止することは苦渋の決断であったし、断腸の思いであったと拝察いたします。

新年早々には、ワクチンの接種が近々始まるという明るい情報もありました。1日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、各種様々な公民館活動の開催を通して、明るく希望に満ちた1年となることを切に願っております。全て元どおりに戻ることは難しいでしょうが、コロナと向き合い、新しい生活様式の中で、地域の皆様方の心と心が通い合う、温かい地域づくりに公民館活動が役立つことを祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

日吉公民館 館長 上田 敏彦

日吉を学ぼう！

第二回日吉わんぱくスクールを、十二月十九日（土）に開催しました。この時期のわんぱくスクールといえは、ここ数年は餅つきを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年は餅つきを諦めて、屋外でできるオリエンテーリング風なことを実施しました。

ルールは簡単で、下鍵山、上鍵山、上大野、父野川にある神社や大師堂等をチェックポイントに設定し、それぞれの場所の問題を出題。各地区に二箇所、合計八箇所の問題を解きながら廻っていきます。

今回参加した児童は十六名で、四名ずつの四つの班に分かれ、クジで決めた最初の目的地に向かってスタート。番号が書いてあるだけの簡単な地図を頼りに、目的地を目指します。当日は、強風の吹く肌寒い一日となりましたが、みんな元気に出発しました。全てのチェックポイントを廻ることができれば、約七キロメートル強歩くこととなります。ただ、今回設定した時間は約二時間。問題を解きながら時間内に全てを廻って帰ってくることは、難しいだろうと思っていました。

実際、設定した時間内に帰ってきた班は一班だけで、全てを廻ることはできませんでした。残りの班は設定した時間をオーバーしてしまいましたが、一班だけ全て廻ることができていました。時間をオーバーした分減点もありましたが、採点の結果、その班が優勝しました。

閉会式の上田館長のあいさつの中で、「機会があったらまた参加してください。」という話しに首を横に振る児童があり、余程しんどいわんぱくスクールになったのかもしれないと、反省しています。



希望の光が日吉にやってきました！

十一月二十三日（月）に、道の駅日吉夢産地で「鬼北町に希望の光がやってくる！〜東京2020オリンピック聖火が鬼北町にやってくる〜」というイベントがあり、聖火が展示されました。このイベントは、オリンピック聖火を活用して、地域の元気を取り戻し、地方創生につなげていく取組みを支援するとともに、オリンピック・ムーブメントの推進を図るため、十一月七日の石川県を皮切りに来年三月十六日まで全国十四道府県で展示する事業として総務省が実施。本県では四市三町で聖火の展示が行われました。

会場の一時間以上前から行列ができ始め、十時からのオープニングセレモニーが始まる頃には、最後尾は日吉中学校下の辺りまでになっており、日吉地区であれ程の行列を見たのは初めてでした。オープニングセレモニーでは、本県出身のオリンピックアン武田大作さんがゲストで出席され、オリンピックの思い出や聖火にまつわる話をされました。

オープニングセレモニーが終了し聖火の展示が始まると、一組が聖火を見学できる時間は十数秒と短く、入れ替わりのスピードが速いにも関わらず、次から次へと人が押し寄せました。展示を終了する時間まで行列が途切れることは無く、この日聖火を見学した人は五百人を優に超えています。

オリンピックの聖火を生で見るとチャンスというのは滅多にありませんが、それにしても、聖火の人を引き付ける凄さというものを実感しました。



お正月を華やかに！

12月22日(火)に、日吉住民センター図書室で寄せ植え教室を開催しました。今回は、クリスマスやお正月に合う花で寄せ植えを実施。

まず、講師の仲口先生に用意していただいた花の中から植えたい花を8種類と植木鉢を選びます。その後、仲口先生が寄せ植えの見本用に説明を交えながら、実際に寄せ植えを作っていきます。

一通り作業手順が分かったところで、参加者は植木鉢に8種類の花を次々と植えていきます。途中、仲口先生にチェックしてもらいながら、30分程度で全員の寄せ植えが完成し、最後にお正月らしい小物を挿して出来上がり。

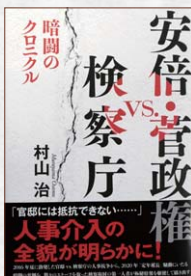
今回の参加者は8名でしたが、みなさんそれぞれに、華やかな新年を迎えられたことでしょう。

次回寄せ植え教室は、3月に開催する予定です。興味のある方もそうでない方も、是非一度参加してみませんか。



その他の図書

書名	著者
生きている力	笠井信輔
俺、つしま	おぶうのきようだい
たかが殺人じゃないか	辻真先
何がおかしい新装版	佐藤愛子
夜は猫といっしょ	キユル
なぜ、読解力が必要なのか？	池上彰
はらぺこ万歳！おかわり	たかぎなおこ



新着図書のご案内
日吉公民館図書室に新しい本が加わりました。



下鍵山公園の遊具が新しくなりました！

下鍵山公園では、老朽化した遊具を撤去し、複合遊具・2連ブランコ・シーソーの3台を新しく設置しました。使っていただくほど遊具も喜ばます。楽しい遊具が待っている下鍵山公園に、ぜひ遊びに来てください。



編集後記
明けておめでとうござい
います。
地域の皆さま、今年も公民館活動に、ご協力いただきま
すようお願い申し上げます。

日吉の人口
12月末人口
1,165人
(△9人)
増減は前回比
男 539人
女 626人
631世帯

日吉地区のための「日吉夢基金」

日吉地区住民の生活文化の振興、社会福祉の増進及び青少年の健全育成を図るための事業資金に充てる「日吉夢基金」に、ご寄付をお願いします。

ただいま、おかえりって言いあえるまでに

みんな 広げよう、 シトラスリボン プロジェクト。



当たり前と思っていた「ふだんの暮らし」を揺さぶっているCOVID19。今や、どこにいても何をしていても、いつだってただだって感染のリスクはゼロではありません。

感染拡大を防ぐためには、さらなる「行動変容」が必要になると同時に、だれもが、少しでも心のびやかに暮らせるようなまちのあり方が、今こそ問われているのかもしれない。

ウイルス感染拡大阻止は、もちろん大事です。経済対策も大事です。でももうひとつ、忘れてはならないことは、たとえウイルスに感染してしまっても、地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるということの大切さです。

「ただいま」「おかえり」。お互いにそんなふうに言いあえる、受け止める空気であってこそ、安心・安全が守られるまちなだと思えます。わたしたちの暮らしを守るために日々奮闘しておられる方々への感謝も込めて、「ただいま」「おかえり」って言いあえるひとの輪を、ここ愛媛から。

Citrus Ribbon PROJECT

シトラス色（柑橘をイメージ）のリボンや紐で、三つの輪をつくる「シトラスリボン」。このリボンやロゴを付けて賛同の気持ちを表現しています。全国に活動の輪が広がっている様子は、下記サイトでご紹介。シトラスリボンの作り方なども掲載しています。

Facebook : citrusribbonfromhime

お問合せ : citrusribbonfromhime@gmail.com(ちよびっと19+)